

# 第6次江南市総合計画市民会議 議事要旨 (第3回 第3分科会 (行政分野))

日 時 平成28年12月13日(火) 9:30~11:30  
会 場 江南市役所 研修室1  
出席者 出席委員8名(全員出席)

## ■委員

〈会長〉	柴田 広美	ほていコミュニティ協議会副会長
〈副会長〉	早瀬 裕子	公募市民
	大脇 勇	公募市民
	豊島 正治	公募市民
	土肥 浩子	有限会社尾北ホームニュース編集
	福岡 恩	江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会副会長
	坪内 俊宣	江南市総合計画策定部会(行政分野) 部会長
	村瀬 正臣	江南市総合計画策定部会(行政分野) 副部会長

## ■傍聴者

なし

## ◆議題

### 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

#### <配付資料>

資料1 第2回江南市総合計画市民会議(分科会)議事要旨

資料2 江南市総合計画市民会議(分科会)での柱の検討予定について

## ◆会議結果

### 1 開会

事務局より挨拶。

### 2 市民会議

#### 2.1 報告

(1) 前回議事録の確認について

(会 長) 報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ~ 資料1について事務局より説明 ~

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

~ 特に意見なし ~

(会 長) 特にご意見がないようですので、次に移ります。

## 2. 2 議題

### (1) 基本計画（分野別計画）について

(会 長) 議題(1)の「基本計画（分野別計画）について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～ 資料2について事務局より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

～ 特に意見なし ～

(会 長) 特にご意見がないようですので、次に移ります。

### ①分野V－柱2 市民協働について

(地方創生推進課) ～ 分野V－柱2市民協働について地方創生推進課長より説明 ～

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 個別目標①地域コミュニティ団体数の基準値とH27の左ページのグラフの合計が合わない。

(地方創生推進課) 次回以降、修正して再度お示しします。

(委 員) 指標は、基準値から目標値を右肩上りにすることを仕組んでいると思う。近隣の同規模自治体など広域のデータをいくつか検証して説明してもらえるといい。

(地方創生推進課) 把握していません。必要なら問い合わせます。

(委 員) 市役所で議論をして設定していると思うが我田引水にならないように。全部は大変だが江南市だけが乖離していないか見通したい。

(地方創生推進課) 近隣とは人口も違うが、指標がふさわしいかどうかを検討する資料を次回以降に出します。

(委 員) 成果目標のうち、行政の取り組み（基本施策）に地域協働の促進とあるが、何が問題で、行政は何をしたいのか伝わってこない。何をもっと強化すべきだという意志が伝わるといい。例えば、どういった分野のNPOボランティア団体を拡大したいという意志があってもいい。

(地方創生推進課) 今後取り組みを強化したい事としては、2ページ目の「市民協働の推進に向けて」に記載しています。例えば2つ目にNPO・ボランティア団体の支援では中間支援団体による支援体制を構築するとしています。市民目線を追求し自由度の高い活動ができるようにするため、市民の立場で推進できるようアクションを起していきたいと考えています。

(委 員) 行政の使命とあるが、この行政とは市役所全体を指すのか、担当する組織を指すのか。

(事務局) 市役所の中で、この柱を担当する組織という理解をお願いします。表記について、計画書では、共通して行政の使命としています。当初は市役所の使命としてまいりましたが、審議会で市役所とは建物や地理的なものを示しているという意見があり、修正しました。

(委 員) ページ構成が理解するのに時間がかかる。最後まで読まないで理解ができず、ロスが多い。一般から見るとそう思う。

(委 員) もう少し具体性があった方がいい。地域コミュニティや中間支援団体の活性化の方向性については理解ができる。中間支援団体への場所の提供や人的育成など具体的に書いてもいいのではないか。全体目標だが、コミュニティ団体数については、数だけにこだわるのではなく、横の繋がりも大切だと考えている。地域協働の促進なら、防災で住民が協働体制をつくっていききたいとすれば、ボランティアなのか委託なのか、といった目標を設定した方がいいのではないか。一般的な社会の向きとしては予算をつけて市民に手伝わってもらう。新しい協働が進んでいる。具体性を持たせた方がいいのでは。

(地方創生推進課) いろんな手法があると思います。具体的な市民協働事業は、柱毎に記載しています。中間支援団体には、場所も自分で借りられるような自立性があるところをお願いしたいが、手法も決まっていないのでここに書くところまでは至っていません。自立性のある団体があれば、ある程度の期間任せたいと思います。

- (委員) 協働をまとめる課がないので困っている自治体は多い。中間支援団体を育てたいことも分かる。職員と市民が共に研修をし合って、中間支援団体を育てていくというプロセスが大事であり、市として思っていることがあるなら計画書に書いた方がいい。トップから進める手法も重要と考えている。
- (地方創生推進課) 他の手法をとることになった時に計画書を変更する必要があるので、どこまで書き込めるか検討します。
- (委員) 市民参加条例に則って進めていくことになると思うので、条例を書き記すこともいいのではないか。
- (委員) 全体的に高齢化社会が進む。市民協働では高齢化社会に向けた取り組みを進めていかないのか。大きなテーマを掲げていても取り組みが書かれていない。他で書かれているからここでは書かないのか。
- (地方創生推進課) 柱2では直接、高齢化の課題を書くことは考えていません。高齢化により地域コミュニティの維持が難しくなってきたことから、リーダーの人材育成も行いたいと思っていますが、この柱には必要ないという考えで書いていません。
- (会長) 他の分野で書かれているということなので後で調整してもらいたい。
- (委員) 地域協働の担当は、地域協働について市役所の各部署と市民をつなげる、コーディネートする役割も重要だと考えている。
- (委員) 実際、老人クラブの構成員が減少している。子ども会も同様である。そういったことが問題視されていない。表面的な指標を掲載してあるだけで、現実の問題の捉え方が甘いのではないか。
- (委員) 老人クラブ、子ども会は役員が回ってくるとやめる人が多い。住民の考えが変わってきている。一方で、地域のサロン活動には人が集まるので、同じことを続けるのではなく、目先を変えていかないといけない。
- (委員) サロンと老人クラブの活動を連携させたらいいと思うが、別々の活動になっている。地域で活動している人たちは、参加者を集めようとしているが、市老連の活動が旧態依然として変わろうとしていない事が問題だと感じる。
- (委員) 「地域協働の促進」に活動の推進だけでなく、コーディネートの役割を記載できないか。
- (会長) 人口減少の中で団体数を増やすことは難しい。内容の向上があればいい。無理な指標をつくらない方がいいということを行っている。老人クラブには入らない理由として老人呼ばわりされるのが嫌という人もいる。いろんな活動の掘り起こしを市にしてもらいたい。コーディネーター役については、文章を加えることで、ニュアンスを伝えることはできないか。
- (委員) 市民協働の柱は包括的なテーマだから大上段にあって、個別のテーマがある方がいいのではないか。
- (事務局) 市民協働は基本構想にも章立てして記載しており、計画の土台になる部分なので、各柱に市民協働のモデルという掲載欄を設けています。高齢化についての協働は高齢化の柱の中に盛り込んでいます。各柱においてそれぞれ、どういった市民協働ができるかということを掲載してあるのが、市民協働のモデルという部分だにご理解をいただきたいと思います。そういった点を踏まえて、市民協働の柱において、各課に市民協働を推進させる部署である地方創生推進課として、どういった内容を掲載できるかについて、一度、担当課と相談の上検討してみます。
- (委員) 個別目標②にホームページのアクセスを増やすことが書いてある。デジタルデバイトという言葉がある。我々の世代はパソコンを使えるかどうかの分岐点で、使えない人はホームページを見ない。しかし、小学校の保護者はほぼ全員がスマホを使っている。少子高齢化が進む中でホームページ以外から情報を得る人もいるので、個別目標②はホームページのアクセス数だけにしない方がよい。市の情報を広報で読む人もいるので、それを充実させることも考

えてほしい。情報の共有はホームページだけでないことを記載してほしい。

(委員) カタカナ語が多い。4ページにアダプトプログラムとあるが、分かりやすい言葉を使ってもらいたい。

(会長) 里親制度だと逆に分かりづらい。

(地方創生推進課) アダプトという言葉は比較的使われている言葉ではありますが、伝わりにくいという事であれば、違う言葉も検討しなければいけないと思います。内容が伝わる言葉で表記したいと考えています。

## ②分野V－柱5 課税について

(税務課) ～ 分野V－柱5 課税について税務課長より説明 ～

(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委員) 個別目標①の指標にある更正決定とは何か。賦課誤りについても説明をお願いしたい。

(税務課) 税額を通知する納付書を出す際に、計算誤り等をした件数を減らす目標を立てました。正しい内容に直すことを更正決定と言います。

(委員) 各種証明書の発行はどうして税務課が行っているのか。

(税務課) 課税などに関する証明書を出しています。

(委員) 課税に関する各種証明書と書いた方がいい。

(税務課) 表現を修正します。

(委員) 賦課誤りは、毎年度10件程度はあるということか。目標値が消極的ではないか。

(委員) クリアすべき目標値は、7件・6件かもしれないが、めざすべき目標値はやはり0件ではないか。個別目標①の未申告者等に対する更正決定の件数についても、相手があることなので、目標設定が難しいと思う。

(委員) 部署内の目標と外部にオープンにするものを分けた方がいい。未申告者に対する更正決定は部署内の目標でいいのではないか。また、行政の使命に専門知識などに精通した職員の育成とあるが、公平性の確保が使命に相応しいのではないか。方向性を検討してもらいたい。

(委員) 家屋の取壊しを行った場合、届けるように広報に書いてあった。こういったことを市民協働のところに書き込んではどうか。市民がやるべきことを書いて、公平性を担保すべきだ。公平な課税に対して市民と共に取り組んでいくことを考えてもらいたい。

(事務局) 市民への意識づけということで書き込めるか検討します。

(委員) 啓発は大切だと考えており、協働にあたるか分からないが、税務は受け身の内容になるので、検討していただきたい。

(事務局) 個別目標に関して、施策評価を毎年度やっており、結果により晴れマークから雨マークをつけて公表します。目指すところは0件ですが、実績をみると0件は難しいと思います。0件をおくと毎年度、雨マークがついて、担当課も説明が難しくなることが想定されます。具体的な数値ではなく、下矢印といった表記はいかがでしょう。

(委員) 課税総数から見た割合を見て、他市と比較した場合に、それが過大でなければ理解できるが、絶対値として数値を表記すると、いかどうか判断しかねる。

(委員) 公正な課税という目で見るとこの目標でいいのか。

(委員) 事務誤りというものは、限りなく0に近づけることは重要であるが、100%なくなるものではないので、賦課誤りによる更正決定の件数という目標は必要ないのではないか。

(税務課) 賦課誤りの件数については、課税の適正というところに関連をしていますが、検討します。

## ③分野V－柱6 収納について

(収納課) ～ 分野V－柱6 収納について収納課長より説明 ～

(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

- (委員) 収納率の推移と口座振替のデータの2つを掲載している。収納率を向上するために口座振替率を上げることは必要なのか。文章に記載しているコンビニ収納に関するデータはない。文章とデータが繋がっていない。コンビニ収納が進むと、収納率の向上に効果があるなら啓発について、市民協働に書き込んでどうか。過去にあった前納報奨金のように、納税者にメリットがあればと思う。
- (委員) カード決済はできないのか。ポイントがつくというメリットがある。
- (税務課) システムの導入が必要になると思います。
- (委員) 課題を納税機会の拡大を図ることと捉えるなら、市民が望んでいる納税方法を提供できているのかということが問題になり、少し違った書き方ができるかもしれない。
- (収納課) カード払い、コンビニ収納は、口座振替と比較し、手数料は高くなり、収納に対する経費はかかってきます。
- (委員) 銀行との手数料は交渉できるのではないかと。市民の便利性を考えて収納機会を拡大するべきなのに、今行っている内容の数値を上げていく取り組みになっている、10年後をみた時、スマホでも支払いができるのではないかと。想像して考えてもらいたい。
- (会長) 他市の例を追うのではなく、まず江南市がやってもらいたい。そういう点も考えてほしい。
- (委員) 現金を取り扱う際の職員の人件費とカード決済の手数料を比較してはどうか。
- (委員) 内々に考えてもらいたい。また、100%の徴収は難しいのではないかと。それに係る人件費を考慮して考えてほしい。
- (会長) 口座振替をすると手数料がかかるとすると、口座振替の割合は低い方がいいのでは。
- (税務課) 口座振替の手数料は1件約10円。コンビニ収納は1件約80円します。
- (会長) コンビニ収納より口座振替を勧める文章がいいのでは。
- (委員) 収納率を上げるために口座振替率を上げると効果があるのか証明されていない。
- (委員) 収納率を上げることを市民が望んでいるのか。公正に収納されていることを知りたかったり、納税機会の拡大を期待しているのでは。また、税務と収納の柱は一体にした方がすっきりするのではないかと。
- (事務局) 作成のルールとして、1つの柱を1つの課が担うということで説明しましたが、関連する柱を合わせてやっていくことが必要ではないかという議論もしています。1柱を1課が担うルールは内部的なものなので修正について検討をします。
- (委員) 市民目線で考えると銀行やコンビニを使えるといい。経費が余分にかかるということなら、書き方を考えてもらいたい。
- (収納課) 納税いただく機会を増やすことは、納税者にメリットがあることなので、活用してもらいたいと考えています。
- (委員) 自動車税はペイジーで支払うことができ、ペイジーは手数料がかからず、利便性が高い。
- (会長) いろいろな方法を活用していくことを提案してもらいたい。
- (委員) 納税通知書の内容を理解できない人もおり、コンビニで払えることを周知することは大切だ。
- (委員) コンビニ収納の利用率が何%か資料としてあげてもらいたい。
- (収納課) 次回以降に提出します。

### 3 その他

#### 次回以降会議日程について

(事務局) 次回、第4回分科会会議は12月26日(月)午後4時から、分野別計画の分野V-柱7行政事務管理、分野V-8議会運営への支援について検討いただく予定です。

第5回以降について、第5回は1月24日(火)の午前9時30分から、第6回は1月31日(火)の午後1時30分から、第7回は2月6日(月)の午後1時30分からの開催を予定しています。検討する柱は未定のため、詳細は後日連絡します。

#### 4 閉会

(事務局) 長時間に渡りご検討いただきまして、ありがとうございました。第3回市民会議(分科会)を終了します。本日はありがとうございました。

以上